

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100075		
法人名	有限会社 ミキ		
事業所名	グループホーム 富士見		
所在地	滋賀県大津市富士見台15-36		
自己評価作成日	平成29年 9月 12日	評価結果市町村受理日	平成 29年 11月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポンアクティライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成 29年 10月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で支え合い、『ゆっくり暮らす、楽しく暮らす、元気に暮らす』の理念に基づき、その人らしい生活の援助に努めている。
グループホームでの生活を入居者だけでなく、スタッフも楽しめるような雰囲気作りを心がけ、ふれあいの時間や何気ない会話など利用者様同士の語らいの時間も大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営法人のミキの介護事業は、2ヶ所のグループホーム、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所とサービス付き高齢者向け住宅等で、介護事業を幅広く展開している。当事業所は開設以来11年を経過している。掲げる理念は法人参加の事業所を通して共通で、「ゆっくり暮そ」「楽しく暮そ」「元気に暮そ」と単純に人間らしい生き方を目指している。この理念に沿って、入居者がその人らしく過ごせるように支援している。特に寝たきりにならないよう適度な運動を欠かさない、嚥下障害を防ぐために口腔運動や歌うことの奨励、テレビにかじりつかないように話しかけて会話を導き出すようにするなど、普通の生活を維持できるように一人ひとりに合わせた支援を工夫している。その効果もあってか自立度の比較的高い人が多く、笑い声が聞こえたり、明るい表情も見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で互いに支え合い、「ゆっくり暮らす」「楽しく暮らす」「元気に暮らす」3つの理念を地域の中でその人らしい暮らしの支援を行っている。	その人らしい生活を実現させようとする理念である。できるだけ自立性を維持して、普通に近い暮らしを送れるように支援している。居間や玄関の利用者やその家族・職員等の目につき易いところに掲示し、パンフレットや重要事項説明書にも示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域での行事(地藏盆・運動会・祭りなど)への参加(見学)。日常の買い物・散歩の際近隣の人達との挨拶や会話をしている。	自治会に加入し、地域の行事に参加したり、買い物や散歩の時々でも交流に心がけているが、地域との付き合いは浅く根付いていない。地道に関係を深めていく方針をとっているが成果が待たれる。	地域との繋がりを築いて欲しい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成のため、実習生の受け入れをしていたが、現在は受け入れ要請がない。地域の方々へ運営推進会議を通じ発信するよう試みている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの現状報告を行い、実態を把握してもらった上で、今後のアドバイスや情報提供をしてもらっている。	2カ月毎に地域包括支援センター職員と利用者家族の参加のもとに開催している。以前繋がりのあった自治会役員や民生委員等を代表とする地域住民の継続的参加を得られていない。議題は事業所からの報告を中心に運営内容に理解を深めてもらえるように努めている。	自治会役員や民生委員等地域代表者の参加を得るなど、地域との人的な繋がりを深めるようにして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、相談・指導・情報提供してもらっている。	入居希望者の紹介を受けたり運営推進会議メンバーでもあるので、包括支援センターとの交流は緊密である。介護保険課とは法人サイドでまとめて接触している。認知症相談協力事業や高齢者徘徊緊急ダイヤル協力事業を受託して、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や日常的に職員間での話し合いにより共有意識を図っている。常に意識の啓蒙及び適時指導している。	外部研修会の参加者は都度事業所内で報告し、全職員への浸透を図って身体拘束ゼロのケアの実現を目指している。更に言葉による拘束(スピーチロック)にも注意を払うように呼びかけている。玄関等の出入り口は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員も研修に参加し、理解を深めている。日々の暮らしの中で情報を共有し再確認・認識するようにしている。大津市発行の高齢者虐待防止・対応マニュアルを常時閲覧できるようにしてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに参加し学ぶ機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居(入所)前の見学や入退居についても十分に時間をとり、説明している。 また、起こりうるリスクを説明し納得・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や何でも言ってもらえるような関係作りを努め、出された意見や要望はケア会議等で話し合い反映している。	運営推進会議に出席する利用者家族や後見人からの意見や、訪問家族からの要望を受けている。 寝たきり対策として運動やリハビリの強化の要望を受け介護内容に反映した事例等がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、問いかけたりしている。メールやLINEの活用も行っている。	日常的な打ち合わせやケア会議や職員会議等の場で自由に出してもらっている。業務分担の見直し等で職員間での労務負担量の平準化や、介護内容に関してリクレーションの開催頻度を上げよう等の提案があり運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労やストレスの要因について気を配り勤務時間中にも気分転換できる場所を確保。職員同士の人間関係を把握したりするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に参加申し込みできるよう、研修の紹介・報告・資格取得を働きかけている。 ケアに関する基本的なことは、その都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会に参加し、情報・意見交換しサービスの質を向上させていく取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて聞き取り、懇談中の何気ない言葉に気づけるようにしている。入居(入所)後は今までの生活スタイルを考慮しながら、ホームの暮らしに慣れ、仲間作り等の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談には、時間のゆとりを持ち、一緒に考えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援していくにあたっては、時間のゆとりを持ち、一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安・苦しみ・喜び等を知ること努め、受容と共感し、利用者様と職員が協働しながら和やかに過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時やTEL等で近況報告などを行っている。必要に応じて家族様と協議する時間を作っている。富士見便りを送付し、近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家内行事に可能な限り参加してもらえよう関係作りを支援している。	利用者の実家の法事等の行事に、出来るだけ参加してもらえよう支援している。友人の訪問や手紙のやりとりなどは少なくなっているが、要望があれば支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、気の合う者同士で過ごせるよう職員が調整役になっている。ゲームやレクレーション等で利用者同士が心通わせるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培われた関係性を大切に相談や支援に応じる姿勢でいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から情報を得て、できる限り利用者様の意向に添えるよう職員間で話し合い対応している。希望や意向を引き出せるよう、日ごろの会話に耳を傾け、信頼関係を構築できるよう努めている。	日常の何気ない会話や動作等で気付くことがある。入浴時や外出等リラックスしたときなどにその機会が多いので特に注意して耳を傾けるようにしている。把握した情報はケア会議や日誌に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、利用者様や家族様から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活・心理面の視点やできないことよりもできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議等にてアセスメント・モニタリング・意見交換を行い、利用者様の思いや意見を反映している。	利用者、家族、介護担当者が毎月1回ケア会議でアセスメントを実施し、モニタリングシートを作成している。大きな変化のない場合でも3ヶ月に1回介護計画を更新し、都度家族の承認を得ている。急変する場合は短期の計画変更をする体制である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態変化を個々のケア記録に記し、また、申し送り(ノート・口答)で職員間の情報共有をし、ケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊は家族様も協力的である。その時の状態に応じて、喫茶・外食・ドライブ・買い物など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に行政機関からも参加してもらい、これをきっかけに周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関を確保して、定期回診以外体調不良時は医師、看護師と連絡を取り、指示を仰いでいる。専門医への受診は可能な限り家族様にも同行して頂き支援している。	特別な要望がない限り、入居時に家族の同意を得て提携医をかかりつけ医にして、毎月2回の定期回診を受けている。利用者や家族の意向で従来からのかかりつけ医にかかる場合は、原則家族同伴で職員も同行して受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の身体において気になることがあれば随時、看護師と連絡がとれる体制をとっている。看護師は週に1回以上ホームに訪問する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるよう地域医療・ソーシャルワーカーと連携をとれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医療担当医の指示に従い、対応が可能かどうかを家族様に明確に伝え、十分相談するようにしている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を利用者家族に説明し、「急変時・終末期に関する事前確認書」で利用者と家族が合意している。重度化した場合は医療関連施設へ移すケースが多く、事業所を開設して11年になるが看とりの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作り、救急車が到着するまでの応急処置や準備することについて各職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作り消防への自動火災通報装置・スプリンクラーを設置している。また、消防訓練等で消火器の使用方法や避難経路を確保している。年に2回消防署立会のもと訓練を行っている。	年2回消防署員立ち会いのもと、夜間の災害発生をも想定して消防訓練を実施している。居室が2階にあり、8人中4人は避難時はたんか移動になり、人手の確保が課題である。避難時は近隣住民の支援を頼みにしているが、確立していない。	避難時に地域住民による支援体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時も利用者様の気持ちを察知し、さりげなく対応し自己決定しやすい様にしている。	プライバシーに関する研修を受け、マニュアル化して利用者の尊厳を守ることを最重点において支援している。特に排泄の表現に気をつけている。異性介護では、入浴時に注意をはらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中から利用者様の思いや希望を伺い、察知できるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに可能な限り合わせられる様に努力しているが、集団生活上無理もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容師による各利用者様の好みにカットしてもらっている。日々の服装も個人で選べるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・盛り付け・後片付け等、各利用者様に応じたことをしてもらっている。	食事介助を必要とする利用者は1名で、他の利用者は自立摂食ができています。8人中4人は準備や後片付けに参加している。職員も一緒に同じメニューで喫食し、誕生会、正月、雛祭り、端午の節句、七夕等では特別食を楽しんでいる。外出の機会に外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配膳量は各利用者様に合わせて、それぞれが食べ易いように工夫している。カロリー計算され栄養バランスの取れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、介助にて毎食後の口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しパット、リハパンの減量、失禁による不快感の軽減に努めている。トイレ使用時等プライバシーに気を付け、自尊心を傷つけないよう心掛けている。	個人別の排泄パターンを把握し、基本的にトイレでの排泄ができており、パットやリハビリパンツ等の使用減少に努めている。8人中4人は自立排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足・水分不足にならないよう必要に応じた促しをし、食事内容にも気遣い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則日曜日以外は毎日入浴対応している。平均週2～3回程度。希望によっては連日入浴も可能。	利用者の希望に合わせて、毎週2～3回の入浴をしている。全員が要介助で、1日に2～3人の入浴している。入浴嫌いなケースもあるが、気長に説得して入浴して貰うようにしている。浴室の入り口に入浴時の体重を記録するようにしており、体重の増減に注意を払っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はおよそ21時と定めているが、各利用者様のリズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更・増量等あった場合は、申し送りノートや口答で伝え、本人の状態変化等ができる限り詳細な見守りをして医師・看護師又は、管理薬剤師に相談・助言を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・花の水やり・食事準備等、各利用者様に合った事をしてもらっている。金魚を飼育し生き物への優しさや成長する楽しみをもってもらえるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩・買い物・ドライブ以外に季節感を味わって頂く為の外出時に外食をしたりしている。一部、図書館の利用もされている。	車での外出は乗用車で少人数対応であるので、全員揃った外出機会は少ない。日常的な散歩・買い物や移動図書館の利用等には職員が同行支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はしてもらっていない。場合によっては利用者様個々の管理能力に応じて支援・管理を行い所持していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を職員と協力し自筆等に出している。 電話は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節ごとの貼り絵(壁紙)を利用者様と職員が共同制作後飾り季節感を味わってもらっている。居室・リビングの空調管理を常にしている。利用者様の希望により冷暖房の使用を制限している場合もある。	日当たりのよい居間兼食堂で、利用者と職員合作のその年の干支を描いた貼り絵をかけ、金魚の水槽を置いて鑑賞に供している。調理場から居間の全体が見渡せるようになっている。トイレは車いすでの出入りが可能な広さで清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者様の気に入った場所で、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活必需品を置かれている。中には在りすぎて混乱を招く場合もあるので、その際は家族様に相談している。	居室は約6畳の洋間で各自ベッドを持ち込んでいる。私物の持ち込みは自由であり、本や衣料品ケースを持ち込んだり、テレビを備えている部屋もあるが、全般的に私物の持ち込みは少なくやや広々としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者様の状況に応じた環境作りをして、問題が生じた場合は、その都度職員間で話し合い、不安・混乱材料を取り除き、自立支援に努めている。		

事業所名 グループホーム富士見

作成日: 平成 29 年 11 月 8 日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1-(2)(3)	推進会議に自治会役員や民生委員等地域代表の参加を得られていない。	地域とのつながりを築く	地域行事に参加する。事業所通信等を発行し、近隣に回覧する。	1～2年
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。